

経営比較分析表（令和5年度決算）

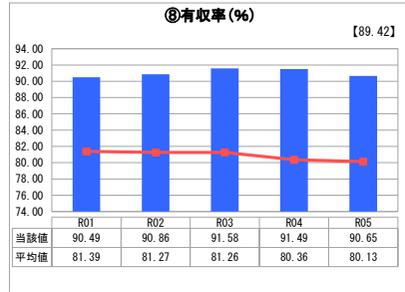
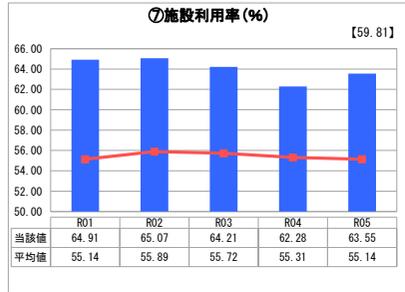
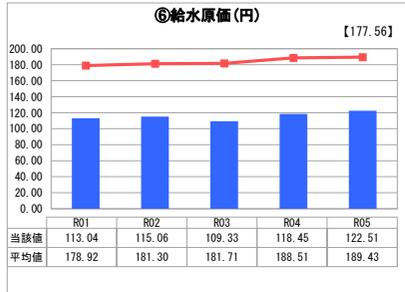
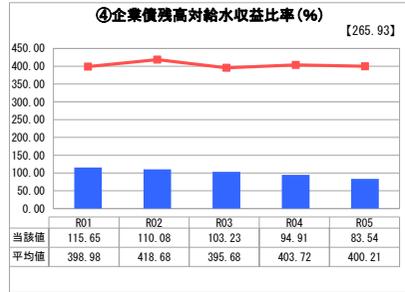
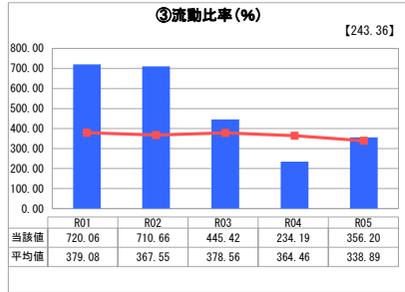
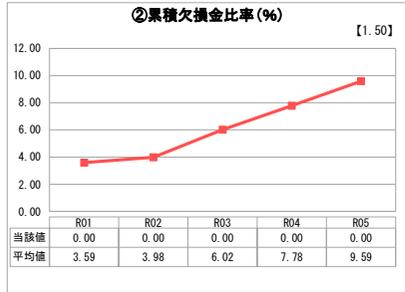
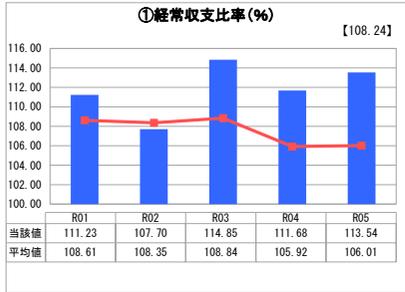
熊本県 八代生活環境事務組合（事業会計分）

業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	85.86	18.56	3,020	

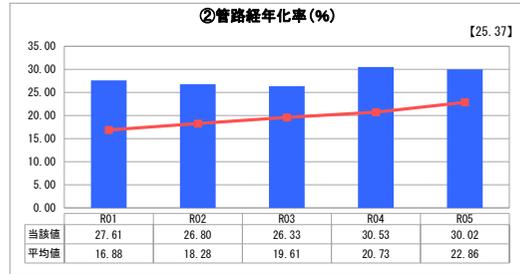
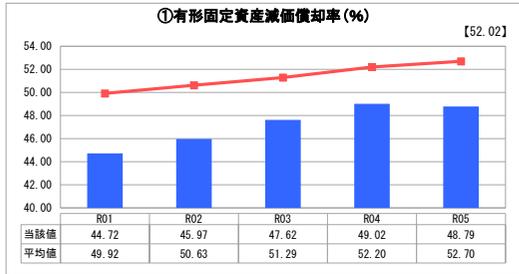
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
24,447	403.86	60.53

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は、水道料金改定による給水収益の増加により、前年度に比べ増加しています。100%を上回る数値で推移しており、黒字経営を維持しています。
- ② 累積欠損金は、発生していません。
- ③ 流動比率は、前年度に比べ大きく増加しており、十分な支払能力があるといえます。これは、浄水場の耐震化工事等による未払金が減少したためです。
- ④ 企業債残高対給水収益比率は、平成26年度以降企業債の借入を行っていないため、減少傾向で推移しています。
- ⑤ 料金回収率は、100%を上回っており、給水に係る費用が料金収入によって賄えているといえます。
- ⑥ 給水原価は、平均値に比べ低く抑えられています。
- ⑦ 施設利用率は、平均値を上回っており、前年度に比べ配水量の増加に伴い増加しました。
- ⑧ 有収率は、平均値に比べ高い数値となっており、適切な維持管理を行えていることが給水収益に反映されていると考えられます。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率は、前年度に比べやや減少しました。平均値を下回っていますが、近年上昇傾向であり、管路の老朽化が進んでいます。
- ② 管路経年率は、平均値を上回っており、法定耐用年数を経過した管路の割合が高い値にあります。
- ③ 管路更新率は、類似団体及び全国平均に比べ低い数値となり、管路の更新が進んでいません。平成28年度から開始した浄水場の耐震化工事が本年度で完了したため、来年度から管路更新事業に移行していきます。

全体総括

現時点では、経営の健全性及び効率性については、概ね確保できているといえます。一方、管路の老朽化状況は、類似団体及び全国平均に比べ進んでおり、年々上昇傾向にあり、浄水場及び導水管、耐用年数を経過した管路の更新等膨大な事業費が必要となります。更に、上下水道耐震化計画策定により今後耐震整備にも事業費が必要となってくることから、計画的な更新が求められます。この資金積立のため、新水道ビジョン及び経営戦略に基づき令和4年10月に水道料金改定を行いました。今後もこれらの計画を基に、経済状況の変化による見直しも検討しながら、安定した経営を継続できるよう努めていきます。